
意味

くもり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

意味

【Nコード】

N1003C

【作者名】

くもり

【あらすじ】

P3 微妙にネタバレです。綾時と主人公のある冬の日の話です。

選択肢を与えて、返ってきた答えは「お前を殺すことはできない」で。

皆が僕を一人の人間として、
友達としてみてくれたことが嬉しかった。

僕は皆に絶望と滅びを与えることしかできないけれど
君たちは僕に沢山のことを与えてくれたね。
特に。

僕をずっと包み込んでいてくれた君は。

君は冷え切った公園のブランコに座って、小さくため息をつきながら肩を落としていた。

僕はなんだかその姿がおかしくて、そつと後ろから近づいてみた。

「ねえ」

君はすぐくびくくりしたように勢いよく振り向いて

「綾時・・・？」

そう言つて、ふつと笑った。

「どうしてここに？もう・・・会えないんじゃないのか？」

「今日は特別。なんだか君に会えるような気がして」

君は、なんだそれ。と右手で額を押さえて笑う。

冷たい夜霧とは逆に、僕は暖かい気持になった。

そういえば君は随分寒そうな格好をしている。

いつもの制服姿で。コートも何もつけていない。風邪を引いたらど

うするんだ。

「その格好、寒くない？」

「お前がいうなよ」

「へへっ。残念。僕は寒さは感じないよ」

僕が笑いながらそういうと、君ははっとしたようにかなしそうな顔をして、ごめん。と呟いた。

僕は急いで言う。

「うっん、大丈夫。そのおかげで君にマフラーを貸すことができるんだから」

自分が巻いていたマフラーをといて、君の首に巻いてあげる。

戸惑ったような顔をして君は僕を見た。

そして、穏やかな笑顔を浮かべて、ありがとう。と言った。

乾燥した空気と、煌々とした月の光が僕らを包む。

空には灰色の雲が点々とある。

「僕ね。君がいるこの時代に、この世界に『うまれて』これて本当によかったと思うんだ」

君が怪訝そうな顔をして僕を見た。

無理もないかな。

いきなりこんな話じゃ。

「君に、君たちに会えて嬉しかった。それで、勿論楽しかった」

深く深く息を吸って、夜の空気を取り入れる。

君も感慨深く目を閉じて息を吸った。

「君たちに会えて、一緒に過ごすことが。僕にとっての、生きていく意味があつたんだと思う」

月の光は一層と明るくなった。

空はどこまでも突き抜けて空っぽだ。

「ありがとう。僕は『ここ』に生きることができたんだ」
「・・・そうか」

君は僕の眼をまっすぐみて、優しく微笑んだ。
それだけで十分。

僕もにっこり笑い返して、隣のブランコに座った。

それから僕らはずっと話していたね。

学校のこと、アイギスさんのこと、修学旅行のこと。

皆との思い出をずっと話していた。

その思い出の一つ一つがとても暖かくて、

僕はいつまでもこの時間が続けばいいのにと思ったよ。

君はいつの間にか寝てしまっていて、

僕はその寝顔をそっと見守った。

ブランコでは安定しないから、抱きかかえて、街頭の側のベンチに座らせた。

マフラーを毛布代わりにして。

「おやすみ」

僕はそう言って、再び夜にかえっていった。

(後書き)

お疲れ様でした。

ありがとうございますv

大好きな綾時と主人公くんで切な系でした。

まだまだペルソナ3の素敵なところが伝え切れません。もっと精進いたします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1003c/>

意味

2010年10月17日04時34分発行